

社会人特別選抜試験の募集対象者及び入学後の処遇について

大学院医学研究科委員会幹事会幹事長 小澤 敬也

本学大学院医学研究科における「社会人特別選抜試験の募集対象者及び入学後の処遇について」は、既に、高久医学研究科長（学長）名で各所属に通知されていますが、広く周知を図るために、この News Letter に掲載することとしました。

社会人特別選抜試験は、平成17年度の文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（採択プログラム名称：「地域医療学の研究者養成」）の一環として平成18年度にスタートしたものです。この社会人枠の主たる目的は、地域の医療現場で働きながら大学院教育を受けられるシステムを構築することです。特に、本学医学部卒業生の場合は9年間の義務年限があり、それを果たしてから大学院に進学するのは、年齢を考慮してもかなり大変なことです。社会人枠を活用すれば、義務年限中に「博士（医学）」の学位を取得することが可能であり、また義務年限終了後に本学大学院（一般枠）で学ぶ場合も、社会人学生として早めにスタートを切るという選択肢が考えられます（社会人枠から一般枠へのシフト）。その他、本学以外の大学出身者などで、本学の臨床部門に入局し、関連病院に派遣になる場合、社会人枠を利用して学位取得を目指す道もあります。このように、社会人枠は、基本的に「地域医療学の研究者養成」を目的としており、他大学の通常の社会人大学院の趣旨とは異なっています。また、研究テーマとしては、地域で働きながら取り組むことができるものを選ぶ必要があります。担当指導教員と予めしっかりと打ち合わせておくことが肝腎です。4年間で学位論文をまとめることが難しい場合は、長期履修制度を活用する方法もあります。長期履修に関する具体的な内容は学事課にお問い合わせいただきたい。できるだけ円滑に研究活動が展開できるように、社会人学生に対しては、担当指導教員の他に、地域医療オープン・ラボのスタッフや大学院学外講師が協力してサポートすることになっています。

尚、一般選抜試験による大学院生については、医局の都合でマンパワーとして利用されることのないように、原則として、派遣（常勤あるいは常勤とみなされる学外での勤務）は禁止されています。社会人枠を利用して、大学院生（一般枠）を派遣に出すことを防ぐために、一般選抜試験で入学した大学院生は、社会人枠へシフトできないことになっています。また、派遣の立場で社会人選抜試験により入学する大学院生は、原則として派遣が継続することを前提としたものであり、本学に戻るのには特別の事情がある場合の特例措置と考えていただきたい。このことは、一般枠の大学院生の権利を守り、本学の大学院教育の崩壊を防ぐためのシステムであることを御理解いただきたく、お願い申し上げます。

社会人特別選抜試験の募集対象者及び入学後の処遇について

1. 募集対象者

- ①他病院等に勤務する者
- ②本学教職員で他病院等に派遣中又は派遣予定の者（主として地域医療に従事する者）
- ③都道府県職員（都道府県が給与等負担）として派遣される後期研修生
但し、シニアレジデントとして採用される後期研修生（本学から給与支給を受ける者）は、対象としない。

2. 本学教職員で他病院等に派遣中又は派遣予定の者が在学期間中に本学へ戻る場合の対応策

次のいずれかによる対応とする。

- ①帰任中は、大学院生としての身分を中止（休学扱い）する。再度、派遣される場合に大学院学生に復学する。（長期履修制度の活用）
但し、帰任（休学）中に大学院特別講義や大学院共通カリキュラム講義などの講義を受講し、課程修了に必要な単位取得のためのレポートを提出することについては、これを認める。
- ②本学を退学し、教職員としての身分を有することなく、一般の大学院生と同じようにする。
- ③大学院を退学する。

3. 適用

平成19年度入学者から適用する。

社会人大学院進捗状況審査会の設置とその開催について

大学院医学研究科では、平成18年度より社会人の受け入れを開始いたしました。社会人学生は働きながら、学習・研究をし、博士（医学）の学位を取得しようとする気概に溢れる学生です。

しかしながら、仕事に追われ漫然と時が流れ、標準修業年限（4年）内に研究が終了せず、学位取得が難しくなることが考えられます。また、社会人学生の研究レベルが低下した場合、本学大学院全体に悪影響を及ぼす恐れがあります。

そこで、社会人学生には、一般の学生以上に学習・研究の進捗状況をチェックし、支援をしていく制度が必要であると考え、『社会人大学院進捗状況審査会』を設置し、毎年2月に開催することになりました。

本年度は、胸部外科学を専攻する2名の社会人学生及び脳神経外科学を専攻する3名の社会人学生に対し、大学院医学研究科委員会幹事会幹事長（小澤教授）出席のもと、社会人大学院進捗状況審査会が地域医療オープン・ラボ（本館3階・旧セ

ミナー室)で開催されました。

学生による研究発表がスライドを用いて10～15分間で行われ、その後活発な討論が行われました。さらに、ラボ・ノートに記載状況とレポートの提出状況が確認されました。社会人学生にとっては多くの示唆に富むアドバイスが得られ大変有意義な審査会であったと思います。

社会人大学院進捗状況審査会



社会人大学院進捗状況審査会の構成委員

- ①担当指導教員(委員長)
- ②研究指導協力教員(いる場合)
- ③大学院学外講師(いる場合)
- ④大学院生が行っている研究領域に精通した者(いる場合)
- ⑤医学研究科教育・広報委員会委員
- ⑥地域医療オープン・ラボ専任コーディネーター

(文責・岩花)

自治医科大学医学部卒業生の学位取得状況把握のためのアンケート結果 その2

最近、各学会による認定医・専門医の取得を目指すことが多く、医学研究をする医師が少なくなってきたとの話を耳にします。そこで、本学医学部卒業生の認定医・専門医の取得状況を探ってみました。これによると、卒後2年目から何らかの認定医・専門医を取得している卒業生がいます。そして、卒後8年目で60%を越え、5、6、8、11、14、16期生では80%を超えており、13期生に至っては90%に達していました。地域医療、特に僻地医療に携わりながら、認定医・専門医の資格を取得することは、大変なことだと思いますが、困難に立ち向かう卒業生の姿が偲べれます。

次に、学位取得状況を探りました(図1)。その結果、卒後8年目の22期生から学位を取得している卒業生がいました。認定医・専門医を90%が取得していた13期生ではほぼ40%が学位を取得していました。それ以前の卒業年次ではすべて40%以上の取得率であり、5期生で62%、8期生で63%と取得率が6割を越えていました。

学位取得までの期間を調べますと、全体で平均12.8年でした(図2)。最も早いのが、本学大学院に進学して学位を取得した場合で、平均11.5年でした。その次は、他大学で論文博士として学位を取得した場合で、平均12.6年です。本学で論文博士の学位を取得した場合は、さらに1年遅れ、平均13.7年かかっていました。最も時間が掛かるのが、他大学の大学院に進学した場合で平均13.9年を要していました。しかし、どこでどのような形で学位を取得しようと、その期間に統計学的な有意差は認めませんでした。卒後20年目を以降に学位を取得した卒業生が2名いました。その熱意と努力に敬意を表したいと思います。

図1. 学位取得状況

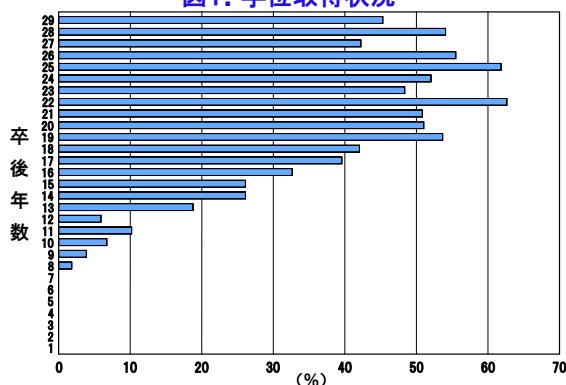
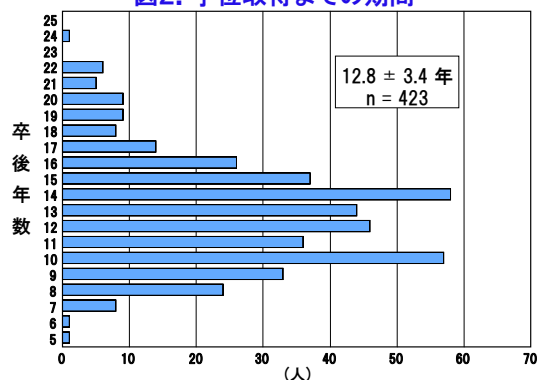


図2. 学位取得までの期間



(文責・岩花)

自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープン・ラボ運営委員会
 事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
 TEL 0285-58-7044 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>